

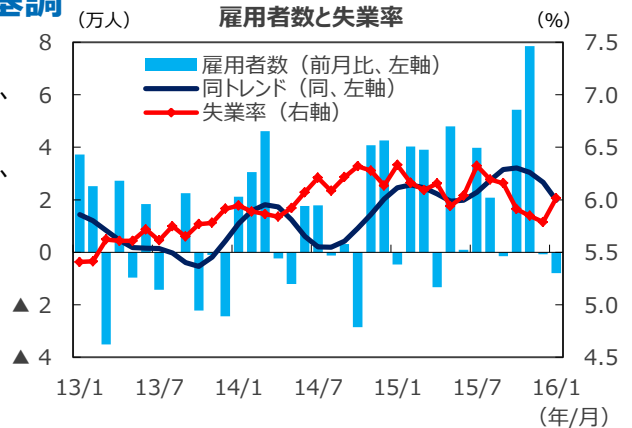
今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済（2016年2月）

消費をけん引役に景気は回復基調を維持

ポイント1 労働市場は緩やかな改善基調

家計セクターは底堅く推移

- 2016年1月の雇用者数は前月比0.8万人の減少、失業率は同+0.2%ポイント上昇の6.0%となりました。2カ月連続で、やや低調な結果です。昨年10月、11月の雇用増加ペースが過去最高水準だった反動の可能性が高いと考えられます。月ごとの振れを均した政府公表のトレンド値を見ると、1月は+2.0万人でした。前月の+2.7万人からは鈍化したものの、緩やかな改善基調を維持しています。
- 雇用改善を背景に消費マインドは底堅く推移しており、小売売上高は前年同月比+4%台の伸びを維持しています。家計セクターは底堅く推移しています。

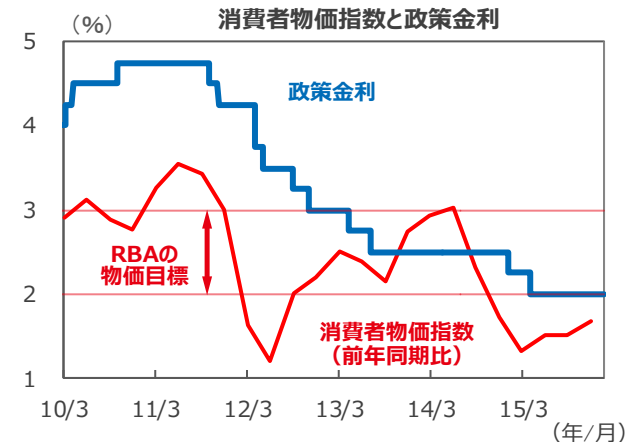


(注) データ期間は2013年1月～2016年1月。トレンドは政府公表値。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価は低位で推移

政策金利は当面、据え置き

- 15年10-12月期の消費者物価上昇率は、前年同期比+1.7%となりました。豪州準備銀行（RBA）の目標である+2%～+3%の下限を依然として下回っていますが、15年7-9月期の+1.5%からは加速しました。
- RBAは2月2日、今年最初の会合で、政策金利を2.0%に据え置きました。物価上昇率が低い水準にとどまっており、利下げの余地はありますが、豪ドル安と労働市場の回復を踏まえると、過去最低の政策金利は当面据え置かれると予想されます。



(注) 消費者物価指数は2010年1-3月期～2015年10-12月期。
政策金利は2010年3月31日～2016年2月22日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 家計部門を軸に景気は回復基調を維持する見込み

- 雇用の緩やかな改善を背景に消費、住宅投資は今後も堅調に推移する見込みです。輸出、設備投資は低迷が続く見通しですが、消費と住宅で補い、景気は緩やかな回復を続けると予想されます。
- 中国経済をめぐる不透明感が払拭されるにつれて、豪ドルの対円レートは徐々に落ち着きを取り戻してきました。中長期では日豪金利差の拡大などから、底堅く推移する見通しです。

ここもチェック! 2016年 2月10日 豪ドルの足元の状況と今後の見通し
2016年 2月 2日 豪中銀、政策金利を据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。